

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
五島市	岐宿地区(楠原集落)	令和3年3月5日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	56.52ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	31.73ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	7.86ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	2.46ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	2.35ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	7.6ha
(備考)	

2 対象地区の課題

水田、畑作、複合農業が同程度に行われており、畑作については法人A、法人Bが農地借り入れにより、また水田については法人C、畜産農家数軒が農地借り入れにより大規模に展開している状況であり、地元の住民も小規模ながら畑作、水田を耕作しているが、60歳代以上が大半であり、後継者が少ないという状況である。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

集落の農地利用は、中心経営体である認定農業者のほか、入作を希望する他地区の認定農業者や認定新規就農者、法人等の受け入れを促進することにより対応していく。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

【農地中間管理機構の活用方針】

・作業の効率化や貸借契約事務の簡素化を図るため、機構を活用した経営農地の集約化を目指す。
 ・中心経営体が病気やけが等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地バンクの機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、機構を通じて中心経営体への貸し付けを進めていく。

【基盤整備への取組方針】

基盤整備済であるが、農業の生産効率の向上や農地集積・農地集約化を図るため、農地の大区画化・汎用化等の基盤整備を検討する。

【新規・特産化作物の導入方法】

JA等が推奨する作物の中から、地域にあった作物の生産に取り組む。

【鳥獣被害防止対策の取組方針】

ここ数年農地被害が多かったため防護柵の設置、捕獲について実施しており、今後も順次、防護柵の目撃情報を積極的に情報共有することにより、被害状況等を把握し、ワイヤーメッシュ柵等の防護柵の設置や捕獲体制の構築等に取り組む。

【災害対策への取組方針】

台風による水害等への自然災害被害防止のため、水路等の清掃等に取り組む。

【その他、集落独自の取組】

中山間による農道、水路の清掃等を実施している。